

JR京都線高架化の報告される 市の負担は百億円単位になる見込み

市はJR京都線芥川以西から総持寺新駅（茨木市）の高架化を（約3・4km）高槻市、茨木市、JR西日本、大阪府（オブザーバー参加）で構成される「鉄道高架化勉強会」で検討しています。危険なJR富田ガード下や「開かずの踏切」の富田村踏切、JR京都線による地域の南北分断などの課題を解決するとしています。

宮本市議は、老朽化している公共施設の更新に約4700億円（市試算）かかる。市の財政や今後の見通しを考えると、市の負担だけで百億円単位になります。こん

な大型開発はするべきではありません。進めるべきはこれまで検討されてきたJR富田ガード下の拡幅と主張。また、阪急の踏切の渋滞が長年地域で問題になってきました。これでは住民の理解は得られないと訴えました。日本共産党市議員団はこれまでも富田奈佐原線のJR富田ガードと富田村踏切の問題が喫緊の課題だと求めてきました。他の委員からも踏切事故などの「当面の安全対策をしっかりと示すべき」との意見があげられました。

今年4月からの 新たな耐震改修促進の計画が策定

国は東日本大震災などを踏まえ、南海トラフ巨大地震の想定を改め、耐震改修促進法を大きく改正。国、府の耐震化の目標も見直されました。

2008年に策定された「高槻市耐震化アクションプラン」は、2017年度から国、府の見直しを踏まえた計画に変わります。市は、新計画の策定にあたって、市民負担を軽減する施策を拡充します。その一部を紹介します。

木造建築物に対する耐震改修設計の補助

現在、耐震診断の結果、耐震性が低いと判断された木造住宅で、所有者の年間所得699万円以下が対象で、設計費用の7割（上限10万円）が補助されます。しかし、賃貸住宅については対象外です。

日本共産党市議員団は、安全な住まいを確保するためにも共同住宅や長屋も対象にするよう、2015年の決算特別審査委員会などで求めてきました。新しい計画では、これまでは対象外だった賃貸住宅も補助の対象とする見通しです。



耐震シェルター、耐震ベッドの設置補助を検討

日本共産党市議員団は2008年の市議会でも、寝起きをしてる所に物が落ちてこないような、少なくとも自分の命だけは守る形の補助について検討するべきだと求めていました。

新たな計画では、高齢者世帯にとって住宅全体を耐震化することは、負担が大きくなるなか耐震化に至らないのが現状だとしています。高齢者世帯や障がい者を抱える世帯などに限り、1部屋だけを耐震化する「耐震シェルター」や「耐震ベッド」の設置など、最低限「生命を守る」改修などのPRを行うとともに、補助についても検討するとしています。

3月議会日程

- 3月1日(水) 本会議／施政方針、提案理由説明
- 3月7日(火) 本会議／代表質問
- 3月8日(水) 本会議／質疑
- 3月9日(木) 本会議／質疑
- 3月13日(月) 福祉企業委員会
- 3月14日(火) 都市環境委員会
- 3月15日(水) 文教市民委員会
- 3月16日(木) 総務消防委員会
- 3月27日(月) 本会議／採決、一般質問
- 3月28日(火) 本会議／一般質問

ぜひ傍聴をお願いします
※いずれも午前10時開会です。